

あすなろ国体炬火台（聖火筒）について

是川遺跡の土器をモデルとして、昭和 41 年（1966）に、青森県金属材料試験所の設計の元、株式会社東北建機工業所で鑄造された。昭和 41（1966）年の高校総体と、昭和 52（1977）年の第 32 回国民体育大会（あすなろ国体）の 2 回、火が灯された。

是川遺跡出土品が選定されたのは、試験所が八戸に立地したこと、また、昭和 37 年（1962）に是川遺跡出土品が重要文化財に指定されたことが理由として考えられる。なお、縄文土器をモデルとして製作された聖火筒は、青森県のほかに、新潟県（火焰型土器・1964 新潟国体）や石川県（真脇式土器・1991 石川国体）などがある。

形状：縄文土器鉢形（雨除けの蓋付）

寸法：高さ 138cm、口径 126.8cm、底張り 90cm、厚さ 1.3cm、重量 650kg

構造：胴部と底部の 2 分割構造で、胴下部付近にバーナーの調整扉を備える

材料：八戸産砂鉄・表面は焼付け漆によるお歯黒仕上げ

解説書 青森県陸上競技場聖火台

この聖火台は八戸市是川にある「陸奥是川中居遺跡」出土の縄文式深鉢（ふかばち）形土器に原形をもとめ、株式会社東北建機工業所において製作したものである。本土器は、縄文式文化期の終わり頃作られた大洞（おおぼら）BC 式と呼ばれる形式の小形土器で重要文化財の指定を受け、現在同遺跡内にある是川考古館に収蔵されている。なお、器形の側面に出土当初から約 1/4 ほどの欠損亡失の部分があるがほぼ原形を保っている。本体の大きさは次のとおりである。 高さ 12.5 cm 口径 11.5 cm 底張り 8.0 cm 厚さ 0.5 cm

県文化財専門委員 音喜多富寿記

~~~~~  
完成した聖火台は原形の欠損部を考定復原のうえ、実物の 11 倍に拡大し模造したものである。

高さ 1380 mm 口径 1268 mm 底張り 900 mm 厚さ 13 mm 重量 650 kg（上 500 kg・下 150 kg）

材料 八戸算出の砂鉄鋳 着色 漆焼付御歯黒仕上

製作年月日 昭和 41 年 1 月 10 着手 昭和 41 年 4 月 26 日完

成

発注者 東北電力株式会社 技術指導 青森県金属材料試験所

設計者 平井資久 製作工場 株式会社東北建機工業

所据付者 八戸鉄工建設株式会社

昭和 41 年 4 月 27 日

八戸市沼館 4 丁目 1 番地 青森県金属材料試験所